

はじめに

- 1 そのことば 伝わってますか？
- 2 フラッシュ型教材とは
- 3 フラッシュ型教材の作成

学習が分かる

学習が分からない

指示・  
発問・説明  
が分かる

指示・  
発問・説明  
が分からない

内容が  
分かる

内容が  
分からない



学習がわからず困っている？



子どもがどこで困っている？

何に困っているかを見抜き、  
どうすれば困らなくなるか考える

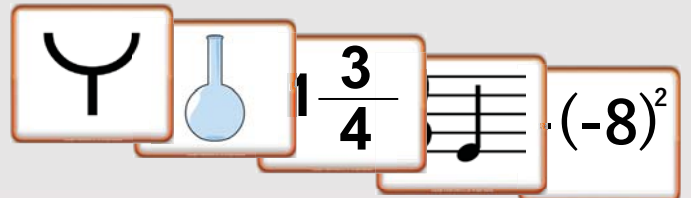
- ① 肯定的な表現
- ② 分かるための手がかり
- ③ 注目できる
- ④ 区切りがわかる

児童にとって  
分かりやすい



長い話し言葉での指示よりも、**短い言葉**による指示と併せて、**視覚的な指示と教材提示が効果的な**ことがある。そこで、児童生徒の興味を引き付ける**視覚支援の情報機器の活用**が考えられる。

教育の情報化に関する手引（文科省）P.200



課題を瞬時に次々と提示するデジタル教材

「教育の情報化に関する手引（文科省）」より

小学校



都道府県



実験器具



帯分数

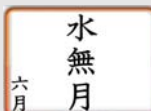


階名

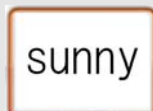
中学校



計算



陰暦



英単語



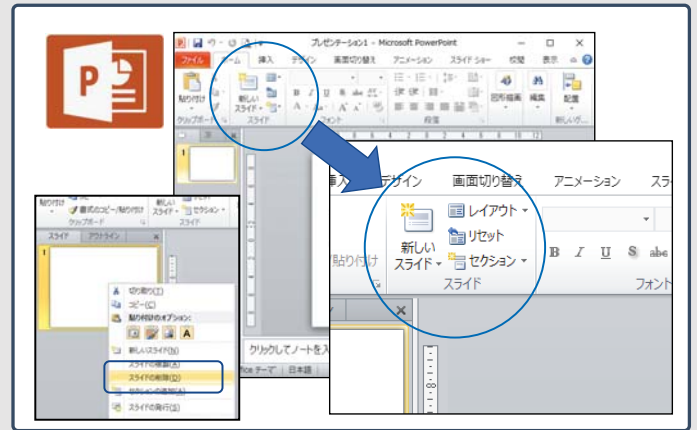
歴史年号

- 1 テーマを決める
- 2 PowerPointを起動する
- 3 指示のページをつくる
- 4 各ページをつくる
- 5 スライドショーで確認する

## ポイント

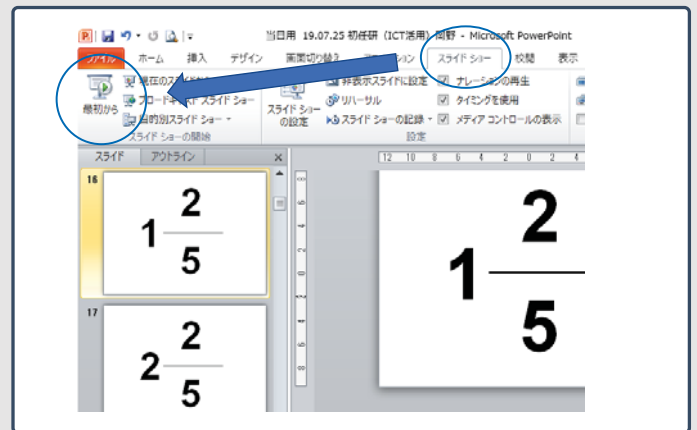
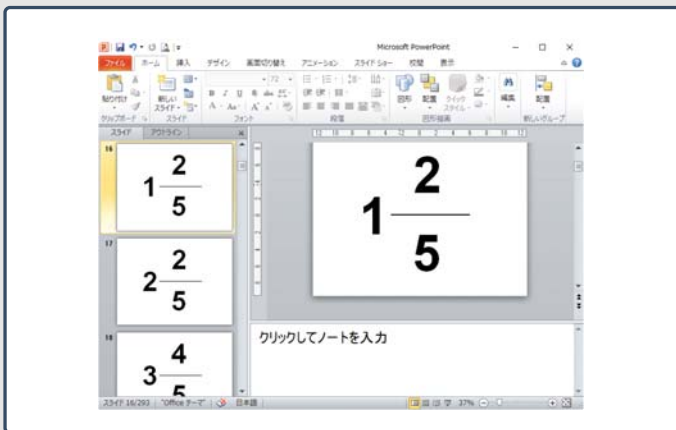
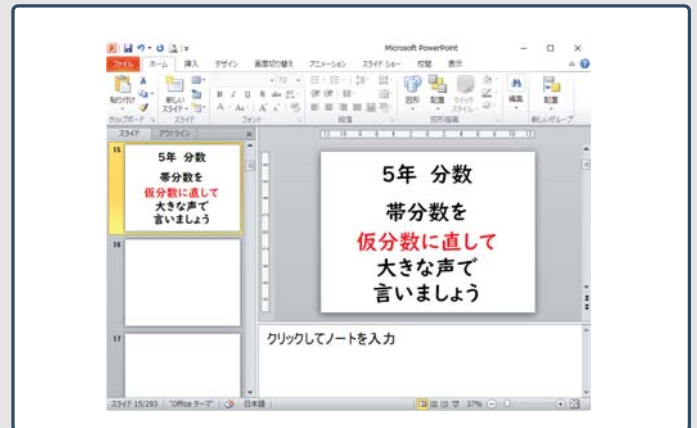
- ・ 漢字の読み
- ・ 道具や器具の名前
- ・ 地図記号
- ・ 英単語

など一問一答で答えられるもの



- ・ 指示は分かりやすい言葉で、短く伝えましょう。
- ・ できるだけ、指示は一つ。複数のことを指示すると印象が薄まります。

おおきな こえで  
いいましょう。



答えが一つ！

→ 声がそろう、メリハリが生まれる

問題順は「易」から「難」

→ 子どもの実態を想定し、答えを予測

繰り返し、確実に習得！

→ 「できない…」が「できる！」に変わる

- 授業のようすは
  - ・ テンポよく、変化に富んだ繰り返し学習
  - ・ **明るい声**と**ほめ言葉**で活気があふれる
- 児童生徒は
  - ・ 顔が上がり、意欲がわく
  - ・ 繰り返しによって、**基礎基本の定着**
  - ・ 自信をもって声が出せる
- 授業者は
  - ・ 教材の作成、修正、保存、共有が容易
  - ・ 児童生徒をイメージして  
すぐに答えられる問題を作る！→**授業力UP!**

時間は  
5~10  
分

はじめに

- 1 そのことば 伝わってますか？
- 2 フラッシュ型教材とは
- 3 フラッシュ型教材を作成する